

かつらぎ町議会、高野町議会で「75歳以上医療費2割化中止」意見書

橋本・伊都社保協、年金者組合、新婦人、民商が取り組み

3月議会で、橋本・伊都社保協と年金者組合が共同で提出していた「75歳以上の医療費2割化中止を求める」請願・陳情がかつらぎ町議会と高野町議会で採択されました。九度山町議会につづく成果です。新婦人、民商も独自に陳情を橋本・伊都地方の各議会に陳情を行っており、こうした運動の結果です。橋本・伊都社保協と年金者組合は、議員向けに、高齢期運動連絡会の代表が国会で行った意見陳述、高齢期運動連絡会の学習会資料、日本医師会の資料、世界の医療制度・高齢者の負担割合の比較（厚労省資料）を提供し、高齢者の2割負担の口実にされている現役世代の負担軽減は月額でわずかに30円にすぎないことを説明してきました。こうした準備も実を結びました。

★国保 各市町村ひとりあたり納付金 大幅増加

県国保運営協議会で示される、今後各市町村が保険料改定の審議

3月24日（木）、和歌山県国保運営協議会が開催され、令和4年度の標準保険料率と各市町村が県井納める納付金が示されました。それによると、各市町村が負担する、ひとりあたり納付金は軒並み大幅増加になっています。増加額が1万円を超える自治体が3つ（高野町、上富田町、すさみ町）、9千円をこえる自治体が4つ（海南市、有田市、紀美野町、串本町）あります。

今後各市町村で保険料の改定が行われます。その際に、基金を活用するなど保険料の軽減をはかるよう求めることが大切です。

橋本市では、令和9年度（2027年度）の県下保険料統一を見据えて、保険料の引き上げを計画的に行う方針です。

国保運営協議会での説明では、医療費はコロナ禍で令和2年度（2020年度）は減ったが、令和3年度（2021年度）は戻っているとのことです。高すぎる国保料を引き下げよの声を地域であげてください。国の責任による財政負担を求めていきましょう。

◎ウクライナ侵攻やめよ、人道支援を。社会保障を守れ。

県社保協 25条宣伝で訴え ウクライナ募金も寄せられました。

3月25日（金）、県社保協は25条宣伝活動を公園前で実施しました。ロシアによるウクライナ侵攻に抗議の声をあげるとともに、道行く方々に人道支援の募金も呼びかけました。また、10月から予定されている75歳以上の医療費2割負担に対して、さらなる受診抑制を招く、コロナ禍で高齢者の命を脅かすものだとして中止を訴えました。この日、14人が参加、年金署名5筆、医療署名4筆集まりました。また、ウクライナ人道支援募金が7人の方から寄せられました。

